

遊ぼ。

着信アリ2

ミムラ 吉沢 悠 石橋蓮司 鰐淵晴子 ピーター・ホー 瀬戸朝香

監督:塚本連平 / 企画・原作:秋元 康 (角川ホラー文庫刊)

製作:黒井和男 / プロデューサー:佐藤直樹 有重陽一 / ラインプロデューサー:山本章 / 脚本:大良美波子

撮影:喜久村徳章 / 照明:才木 勝 / 美術:新田隆之 / 録音:滝澤 修 / 編集:上野聡一 / 音楽:遠藤浩二 / 音響効果:柴崎憲治 / キャスティング:石垣光代 / 助監督:山口晃二 / 製作担当:毛利達也

主題歌:aki (ソニー・ミュージックエンタテインメント) / 製作プロダクション:角川映画 / 製作:「着信アリ2」製作委員会 (角川映画 日本テレビ放送網 S・D・P 東宝) / 配給:東宝 ©「着信アリ2」製作委員会 四角形

www.chakuari.jp 携帯は a@pmag.jp

着信アリ、 その恐怖は 世界に伝播する



ふと気が付くと携帯に表示されている「着信アリ」のメッセージ。発信先は不思議なことに自分の携帯番号。そして、着信時刻は3日後。残されたメッセージの声は、明らかに自分自身の声。しかも、その声は救いようのない恐怖に彩られている。そして、3日後のその時刻。現実に死の瞬間が…

携帯電話を伝ってくる恐怖で日本を震撼させた『着信アリ』。その恐怖は日本だけでなくどまらずアジア、アメリカ、ヨーロッパと全世界に伝播。ハリウッドメジャーからのリメイクのオファーも殺到し、日本発の『着信アリ』の恐怖はまさにワールドクラスに至った。だが、その恐怖は更なる恐怖への序曲に過ぎなかった。恐怖は繋がっていた。その次なる恐怖のステージとして用意されたのが、この続編『着信アリ2』である。

『着信アリ』のラストは謎めいたラストだったが、『着信アリ2』はそのラストから始まる。しかも、主人公の中村由美(柴咲コウ)が自分を助けてくれた山下(堤真二)を殺して失踪したところから。そして、時を同じくしてまた別の場所である死の着メロが鳴る。その着信を受けたのは保育士の奥寺杏子(ミムラ)だった。杏子を救うために恋人の桜井尚人(吉沢悠)はルポライターの野添孝子(瀬戸朝香)と共に、死の着メロの謎を解くべく動き出し、その答えが台湾にあるらしいことを突き止める。しかし、そこで待っていたのは生きたまま口を縫われた少女にまつわる思まわしい恐怖の末裔だった…。

企画・原作は前作に引き続き秋元康。今回は舞台を台湾に移すことで、ジャパニーズホラーをアジアンホラーにまで高めている。監督は「アルジャーノンに花束を」「アットホームダッド」などを手掛けた塚本連平が初のホラー映画に挑み、TVドラマで研ぎ澄まされた感覚で絶妙な恐怖を演出している。そして、主演は今や最注目株のミムラ。ドラマ、映画、CMと出演が続いているが、今作が初の映画主演となり、恐怖の中にも愛を感じさせる演技で新境地を開拓している。また、TVドラマ以外に映画でも活躍が期待される吉沢悠が精悍な演技で恋人役を、映画のみならず舞台にも活躍の場を広げている瀬戸朝香が彼らとともに事件を追うルポライターの硬派に演じ、前作から唯一引き続きの出演となる石橋蓮司も脇を固めている。

新たなステージで新たなスタッフキャストによる新たな恐怖。それはきつと観たことを後悔するまでの恐怖。恐怖はまだ繋がっている。

www.chakuari.jp / 携帯→a@pmag.jp



2005年2月5日(土) 全国東宝系公開

前売券発売中 一般1,300円

有楽町マリオン・阪急側
日劇 2 (3574) 1131

渋谷・道玄坂109前
日劇 2 (5489) 4210